



魅どころ満載!!

たけとよの



とこしえに続く
時代に
想いをはせる
武豊の歴史

鉄道の敷設とともに
味噌・たまりの醸造業が
盛んになった蔵の町並みと
実に300年ほどの長きにわたる
武豊の山車の曳き回しは
後世に語り継がれるものです。

自家焙煎の
スペシャルティコーヒーに
出会える店



じろべえ
治郎兵衛

〒470-2544 武豊町里中 128-1
TEL.0569-72-0160 FAX.0569-89-6018
●営業時間 / 8:00~17:00
●定休日 / 火曜日、水曜日

歴史を感じる

JR武豊駅を降りるとロータリーには胸像が立ち、そのまま南へ足を伸ばすと味噌・たまりの醸造蔵の町並みが見えてきます。

その東には、かつて武豊港駅があり、転車台の傍に佇むと港から荷揚げした資材を鉄道で運んでいた時代に思いを馳せることができます。



武豊線と転車台

1886年(明治19年)、県下で最初の鉄道として武豊線が開通しました。この鉄道敷設を契機に武豊町は大きな発展を遂げ、いわば武豊線は武豊町発展の象徴と言えます。現在は、JR武豊駅が武豊線の終着駅となっていますが、かつては、武豊港に向かって線路が続いており、約1km先にあった武豊停車場(後の武豊港駅)が武豊線の起点でした。ここには昭和2年建造の転車台が残っています。貨車の向きを変えるために用いられた直角二線式のもので、全国で武豊町にしか現存しない大変貴重な文化遺産であり、国の登録有形文化財となっています。



旧国鉄武豊線 武豊停車場跡
国鉄武豊線の起点である武豊停車場が字道仙田にありました。



高橋熙君顕彰像

1953年(昭和28年)9月25日、台風13号の襲来により、字塩田付近の線路が高潮で運行不可能となりました。武豊駅に勤務していた旧国鉄職員、高橋熙さんは、東成岩駅を発車した列車に危険を知らせるため、発炎筒をたいて暴風雨の中へ飛び出しました。そのお陰で、列車は危険から脱して乗客は無事でしたが、高橋さんは高潮にのまれて殉職されてしまいました。高橋さんの功績と強い責任感をたたえ翌年、武豊駅前に胸像が建てられました。



長尾城跡・長尾学校跡

長尾城は、戦国時代の岩田氏の居城でした。武雄神社の南東に「四方一重の堀」を構えた城を築いていました。

長尾学校は蓮花院の庫裡にありましたが、1879年(明治12年)にこの場所に移転されました。1887年(明治20年)に「武豊学校」、1892年(明治25年)に「武豊尋常小学校」と改称しましたが、現武豊小学校が建設される1899年(明治32年)までの20年間ここは、子どもたちの学び舎でした。



三井家住宅

もともと農家であった三井家は、三代目の時(1770年頃=明和年間)に長尾村の庄屋を務めるようになり、以降明治初期まで約100年間受け継がれました。長尾村は、幕府尾張藩鳴海代官所直轄地で、三井家は長尾村のみならず知多郡南部を管轄する大庄屋の立場にありました。

平成27年11月、主屋を始めとする5件の建造物が国登録有形文化財に登録されました。



長尾山鳳翔閣跡(記念碑)

鳳翔閣は、1887年(明治20年)に建築され、同年2月23日に明治天皇並びに皇后陛下が陸海軍演習の統覧のため、ここでご休息されました。当時の記念碑が、役場玄関前に設置されています。

祭り

武豊町には11台の山車があり、毎年それぞれの地区で曳き出されます。

武豊の山車の曳き回しの歴史は古く、伝承では江戸時代でも山車を使った祭礼があったといわれ、実に300年ほどの長きにわたるものであります。各地区のまつりは脈々と伝えられてきた歴史・文化・伝統を振り返り、町の誇りとして後世に語り継がれるものです。



長尾地区祭礼



大足区祭礼



富貴地区祭礼

武豊ふれあい山車まつり
11台の山車が
一堂に集結!



5年に1度の町制の記念年に行われる「武豊ふれあい山車まつり」では、町内すべての山車11台を一堂に見ることができます。

YURAKU-KUCHIDA★YURAKU-KUCHIDA★
Pachinko & Slot
YURAKU
有楽口田店
武豊町字口田27-2
☎0569-73-2886
★YURAKU-KUCHIDA★YURAKU-KUCHIDA★YURAKU-KUCHIDA★YURAKU-KUCHIDA★